

## 認知症でなくても起きる



トランプさんと金さんの罵りあいには、肝を冷やされる。いや、気の小さなワッシーには、親子喧嘩も心臓に悪い。今日も、クリニックは朝から騒がしい。

「私は、認知症じゃない。ウソなんかついでいない」と怒り心頭なのは、76歳のB子さん。娘さんは、「隣のおばさんは、夜中に洗濯機なんか回していない。そんな悪いひとじゃない」と、こちらも強情だ。最近になって、ひとり暮らしのB子さんが、「近所のひとからいじわるされる」と訴えるようになった。

が、そんな事実はずいぶんつた。B子さんの幻聴と被害妄想だろう。だが、遠方に住む娘さんは、母親

## 幻覚や妄想

も認知症になったかと思ひ込んだ。確かに、幻覚や妄想というのは、認知症ではよくみられる症状だ。アルツハイマー型認知症では、早期から「もの盗られ妄想」が起きることがある。レビー小体型認知症では、ないものが見えるという幻視が出たりする。

だが、B子さんには、記憶障害はない。外出や買い物、料理など、なにひとつ支障はない。MRI(磁気共鳴画像装置)の画像で、脳は年齢以上に若いということがわかる。間違ひなく、認知症ではない。一過性の意識障害によるせん妄や、妄想性うつ病でもない。

実は、こういった種類の幻覚や

## 治療すれば大概治る

妄想というのは、高齢者で時にみられる。認知機能障害も感情障害もなく、まるで若いひとの統合失調症の症状に似ている。ことにひとり暮らしの女性に多いとされている。が、その原因となると、よく分かっていない。加齢に伴う脳の変化やストレスなども関係するのだろうか。

さあ、おふたりさん。虚しい喧嘩はそれくらいで止めよう。医者の寿命が縮まる。精神科の先生に紹介状を書きます。薬物療法や精神療法などの専門的治療で、大概の幻覚妄想は治ります。

(石黒修三 しいしくるクリニック)  
・脳神経外科専門医、金沢市在住